

「食の安全・安心」についてのアンケート結果

県民の皆さんが食の安全・安心に関して、日ごろ感じておられることとお聞きし、今後の県政（滋賀県食の安全・安心推進計画や滋賀県食品衛生監視指導計画など）に反映するため、アンケート調査を実施しました。

なお、このアンケートは、県民の皆様の意識の推移も参考とさせていただいておりますので、平成17年度より継続して実施しています。

★ 実施時期：令和4年6月

★ 対象者：県政モニター 299人

★ 回答数：250人（回収率：83.6%）

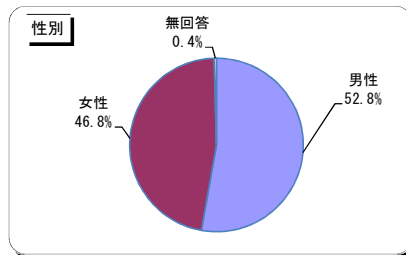
★ 担当課：健康医療福祉部生活衛生課食の安全推進室

（※四捨五入により割合の合計が100.0%にならない場合があります。）

【属性】

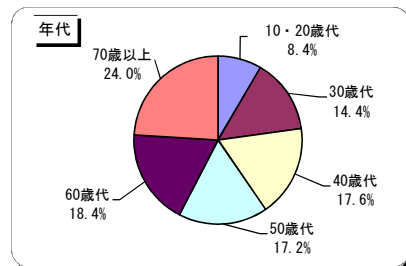
◆性別

項目	人数(人)	割合
男性	132	52.8%
女性	117	46.8%
無回答	1	0.4%
合計	250	100.0%



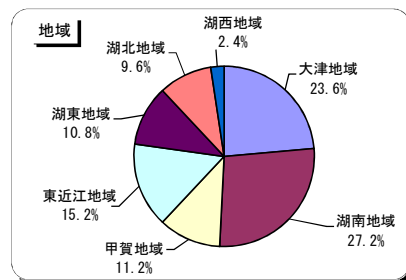
◆年代

項目	人数(人)	割合
10・20歳代	21	8.4%
30歳代	36	14.4%
40歳代	44	17.6%
50歳代	43	17.2%
60歳代	46	18.4%
70歳以上	60	24.0%
合計	250	100.0%



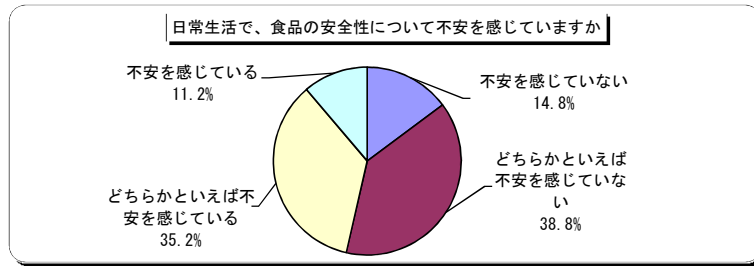
◆地域

項目	人数(人)	割合
大津地域	59	23.6%
湖南地域	68	27.2%
甲賀地域	28	11.2%
東近江地域	38	15.2%
湖東地域	27	10.8%
湖北地域	24	9.6%
湖西地域	6	2.4%
合計	250	100.0%



問1 あなたは日常生活で、食品の安全性について不安を感じていますか。(回答チェックは1つだけ。n=250)

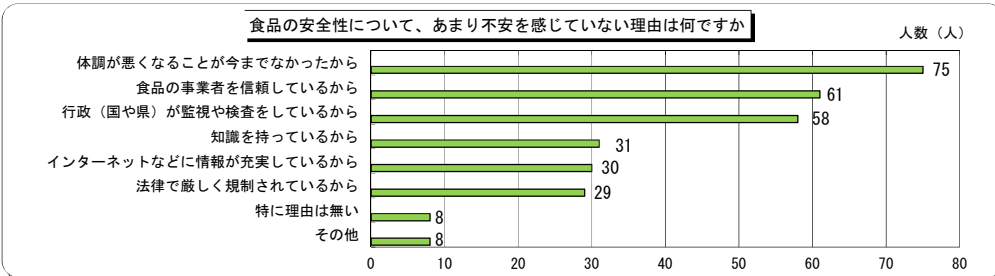
項目	人数(人)	割合
不安を感じていない	37	14.8%
どちらかといえば不安を感じていない	97	38.8%
どちらかといえば不安を感じている	88	35.2%
不安を感じている	28	11.2%
合計	250	100.0%



【問1で「不安を感じていない」または「どちらかといえば不安を感じていない」と回答された方にお尋ねします。】

問2 食品の安全性について、あまり不安を感じていない理由は何ですか。(「7. 特に理由はない」を選択した場合を除き、回答チェックはいくつでも可。n=134)

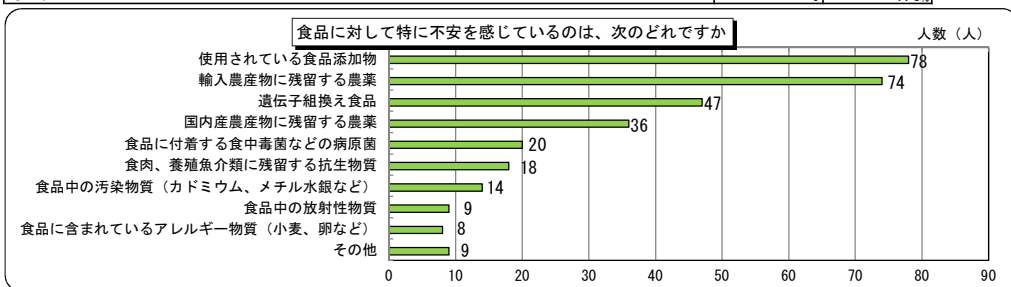
項目	人数(人)	割合
体調が悪くなるのが今までなかったから	75	56.0%
食品の事業者を信頼しているから	61	45.5%
行政(国や県)が監視や検査をしているから	58	43.3%
知識を持っているから	31	23.1%
インターネットなどに情報が充実しているから	30	22.4%
法律で厳しく規制されているから	29	21.6%
特に理由はない	8	6.0%
その他	8	6.0%



【問1で「どちらかといえば不安を感じている」または「不安を感じている」と回答された方にお尋ねします。】

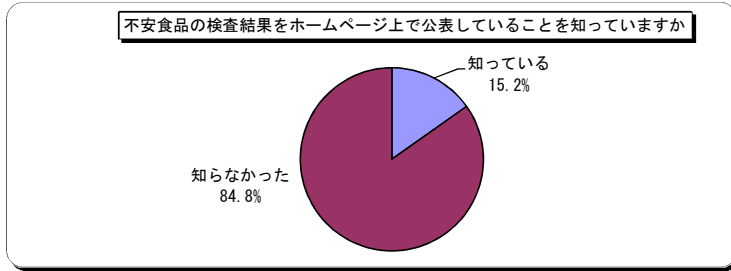
問3 食品に対して特に不安を感じているのは、次のどれですか。(回答チェックは3つまで。n=116)

項目	人数(人)	割合
使用されている食品添加物	78	67.2%
輸入農産物に残留する農薬	74	63.8%
遺伝子組換え食品	47	40.5%
国内産農産物に残留する農薬	36	31.0%
食品に付着する食中毒菌などの病原菌	20	17.2%
食肉、養殖魚介類に残留する抗生物質	18	15.5%
食品中の汚染物質(カドミウム、メチル水銀など)	14	12.1%
食品中の放射性物質	9	7.8%
食品に含まれているアレルギー物質(小麦、卵など)	8	6.9%
その他	9	7.8%



問4 滋賀県では、平成26年度から県政モニターアンケート結果を参考に、「不安を感じている」と回答された割合の高い食品を選んで検査を実施し、令和3年度に実施した結果についてはホームページ上に公表しています。このことを知っていますか。(回答チェックは1つだけ。n=250)

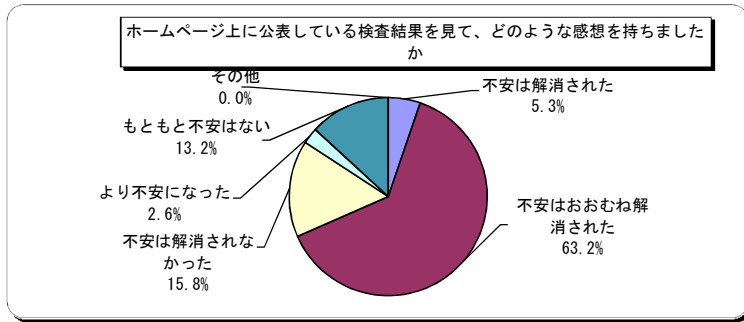
項目	人数(人)	割合
知っている	38	15.2%
知らなかった(このアンケートで初めて知った)	212	84.8%
合計	250	100.0%



【問4で「知っている」と回答された方にお尋ねします。】

問5 ホームページ上に公表している食品の検査結果をご覧になって、どのような感想を持ちましたか。(回答チェックは1つだけ。n=38)

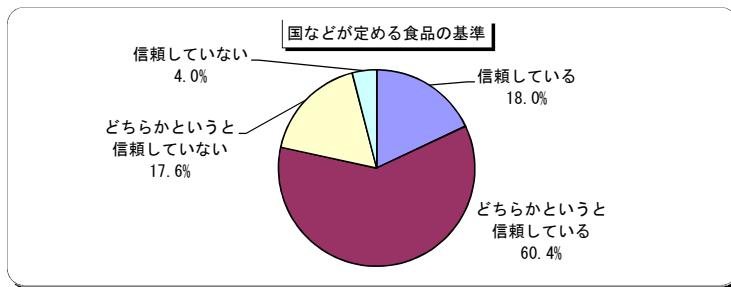
項目	人数(人)	割合
不安は解消された	2	5.3%
不安はおおむね解消された	24	63.2%
不安は解消されなかった	6	15.8%
より不安になった	1	2.6%
もともと不安はない	5	13.2%
その他	0	0.0%
合計	38	100.0%



問6 食品にたずさわる関係者に対する信頼感についてお尋ねします。(回答チェックは各1つ。n=250)

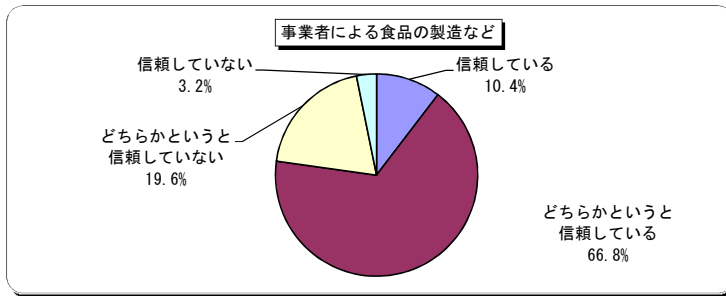
(1)国などが定める食品の基準(食品添加物の使用基準など)について

項目	人数(人)	割合
信頼している	45	18.0%
どちらかという信頼している	151	60.4%
どちらかという信頼していない	44	17.6%
信頼していない	10	4.0%
合計	250	100.0%



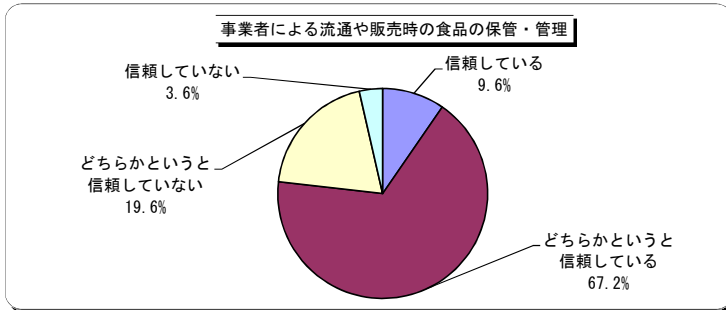
(2) 事業者による食品の製造などが適正に行われているかについて

項目	人数(人)	割合
信頼している	26	10.4%
どちらかという信頼している	167	66.8%
どちらかという信頼していない	49	19.6%
信頼していない	8	3.2%
合計	250	100.0%



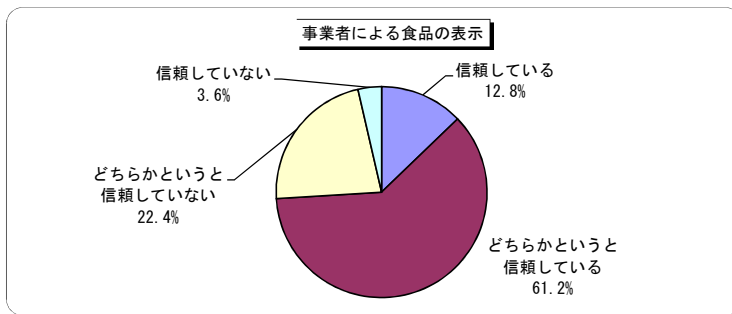
(3) 事業者による流通や販売時の食品の保管・管理が適正に行われているかについて

項目	人数(人)	割合
信頼している	24	9.6%
どちらかという信頼している	168	67.2%
どちらかという信頼していない	49	19.6%
信頼していない	9	3.6%
合計	250	100.0%



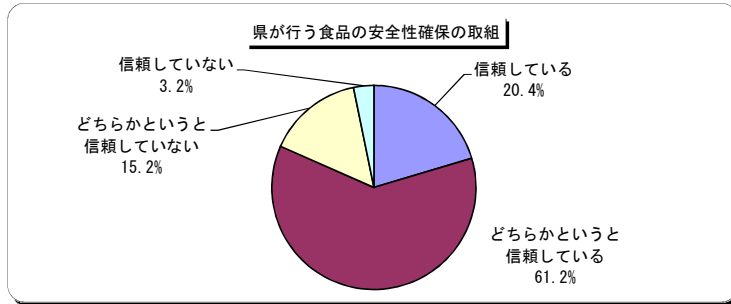
(4) 事業者による食品の表示が適正に行われているかについて

項目	人数(人)	割合
信頼している	32	12.8%
どちらかという信頼している	153	61.2%
どちらかという信頼していない	56	22.4%
信頼していない	9	3.6%
合計	250	100.0%



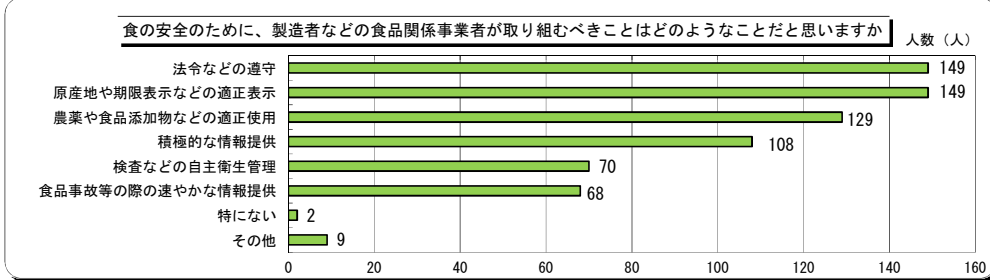
(5) 県が行う食品の安全性確保の取組（飲食店などの立入検査や食品の検査等）について

項目	人数(人)	割合
信頼している	51	20.4%
どちらかという信頼している	153	61.2%
どちらかという信頼していない	38	15.2%
信頼していない	8	3.2%
合計	250	100.0%



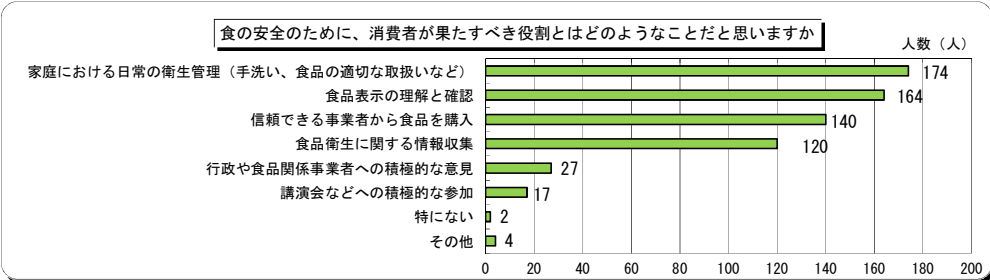
問7 あなたは、食の安全のために、製造者などの食品関係事業者が取り組むべきことは、どのようなことだと思いますか。
 （「7. 特にない」を選択した場合を除き、回答チェックは3つまで。n=250）

項目	人数(人)	割合
法令などの遵守	149	59.6%
原産地や期限表示などの適正表示	149	59.6%
農薬や食品添加物などの適正使用	129	51.6%
積極的な情報提供	108	43.2%
検査などの自主衛生管理	70	28.0%
食品事故等の際の速やかな情報提供	68	27.2%
特にない	2	0.8%
その他	9	3.6%



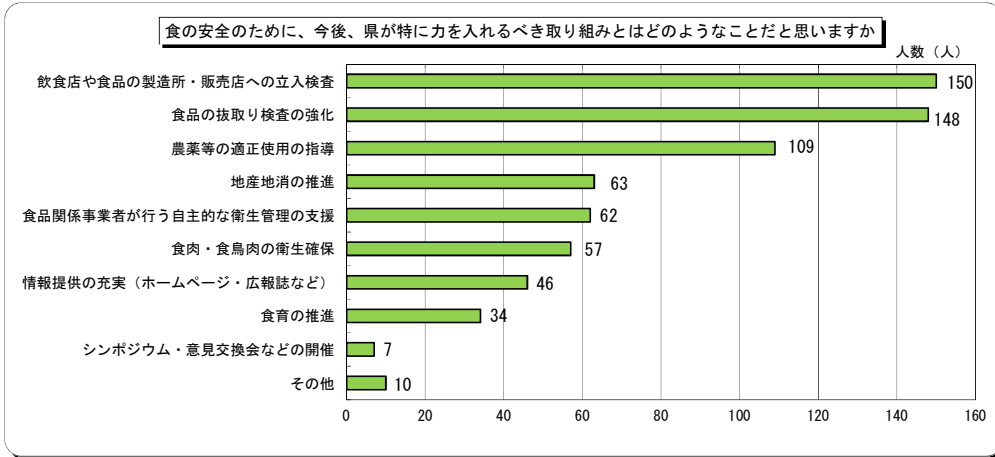
問8 あなたは、食の安全のために、消費者が果たすべき役割とはどのようなことだと思いますか。（「7. 特にない」を選択した場合を除き、回答チェックは3つまで。n=250）

項目	人数(人)	割合
家庭における日常の衛生管理(手洗い、食品の適切な取扱いなど)	174	69.6%
食品表示の理解と確認	164	65.6%
信頼できる事業者から食品を購入	140	56.0%
食品衛生に関する情報収集	120	48.0%
行政や食品関係事業者への積極的な意見	27	10.8%
講演会などへの積極的な参加	17	6.8%
特にない	2	0.8%
その他	4	1.6%



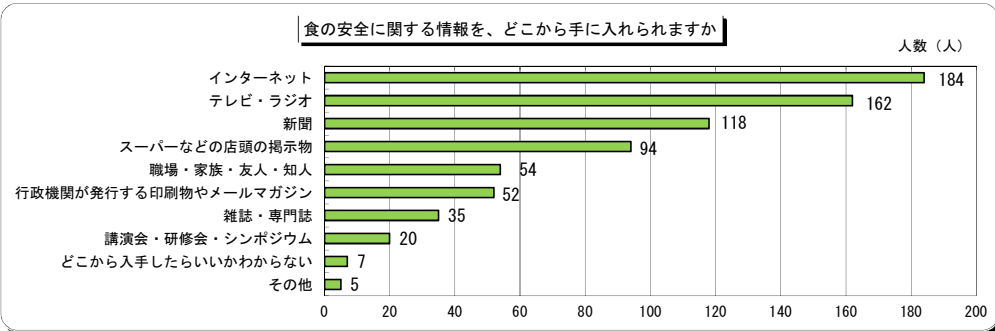
問9 あなたは食の安全のために、今後、県が特に力を入れるべき取り組みとはどのようなことだと思いますか。(回答チェックは3つまで。n=250)

項目	人数(人)	割合
飲食店や食品の製造所・販売店への立入検査	150	60.0%
食品の抜き取り検査の強化	148	59.2%
農業等の適正使用の指導	109	43.6%
地産地消の推進	63	25.2%
食品関係事業者が行う自主的な衛生管理の支援	62	24.8%
食肉・食鳥肉の衛生確保	57	22.8%
情報提供の充実(ホームページ・広報誌など)	46	18.4%
食育の推進	34	13.6%
シンポジウム・意見交換会などの開催	7	2.8%
その他	10	4.0%



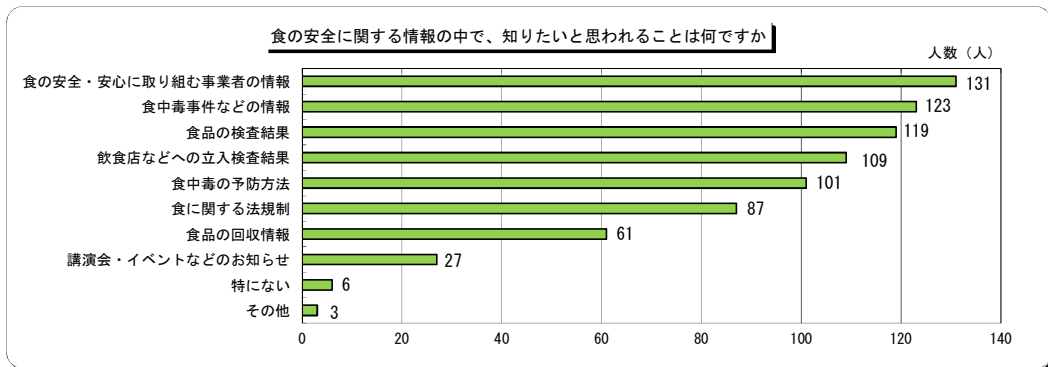
問10 あなたは、食の安全に関する情報を、どこから手に入れますか。(「9. どこから入手したら分からない」を選択した場合を除き、回答チェックはいくつでも可。n=250)

項目	人数(人)	割合
インターネット	184	73.6%
テレビ・ラジオ	162	64.8%
新聞	118	47.2%
スーパーなどの店頭の掲示物	94	37.6%
職場・家族・友人・知人	54	21.6%
行政機関が発行する印刷物やメールマガジン	52	20.8%
雑誌・専門誌	35	14.0%
講演会・研修会・シンポジウム	20	8.0%
どこから入手したらいいかわからない	7	2.8%
その他	5	2.0%



問 1 1 あなたが、食の安全に関する情報の中で、知りたいと思われることは何ですか。（「9. 特にない」を選択した場合を除き、回答チェックはいくつでも可。n=250）

項目	人数（人）	割合
食の安全・安心に取り組む事業者の情報	131	52.4%
食中毒事件などの情報	123	49.2%
食品の検査結果	119	47.6%
飲食店などへの立入検査結果	109	43.6%
食中毒の予防方法	101	40.4%
食に関する法規制	87	34.8%
食品の回収情報	61	24.4%
講演会・イベントなどのお知らせ	27	10.8%
特にない	6	2.4%
その他	3	1.2%



問12 あなたが、食の安全について、日頃感じていることを自由に記入してください。（抜粋）

【主な意見】

・最近、小学校などの給食で食中毒などが多数報告されているのが気になります。親がどれだけ気をつけていても給食には介入出来ないで、無防備な子供が犠牲になるのは避けてほしいです。ぜひ県や市によるチェックを徹底してほしいです。

・家庭内で出来ることは別にして、一般消費者は業者や行政の指導、監督の適正を信頼するしかありません。国内産でも時々不正事例を耳にしますが、多く入ってきている海外産の商品に対して情報発信と検査の強化を行政も流通業者と共により積極的に取り組んで欲しいです。

・食中毒関係はほぼ心配していません。複数の食品添加物を知らず知らずのうちに摂取し続けること、海外（特に中国）からの食品についての安全性への不安を日々感じています。

・保育園の調理員をしているので関心も強いですが注意して行動しています。近年産地擬装や消費期限書き換えなど信頼を揺るがすニュースがよく聞かれるので、安易に事業者や生産者がそういったことをしないような、検査や厳罰を強化してほしいです。消費者も管理生産されている事に感謝しながら、より厳しい目で確認していくべきだと思います。

・食中毒が増えるこの時期に注意喚起はもちろん安全にかつ正しく保管し食すことのできるような情報をこまめに発信してほしい

・消費期限については、特に注意して、表示を信頼している。この表示が適切か否かの立ち入り検査を十分に行ってほしい。

添加物の表示も注視しているが、どの添加物がどのような効果があるのかを理解できていない。これの研修会のようなものがあれば、参加してみたい。

・県を含む行政の対応、処置を信頼しているので、神経質になるほど心配はしていない。ただ、食中毒等の情報に接したときは、少しナーバスになる。

・県内店舗における食中毒発生情報の提供は継続して頂きたい。

・食の安全に関して日頃は無意識であったが、無意識に大手や知名度の高い商品を手にしていただと思う。スーパーなどが取り扱っているからと勝手に安心していたところがあり、もう少し食の安全に関心を持たないと、と反省している。

・最近、食中毒のニュースを聞きます。スーパーで買った刺身で、アニサキスにやられるのは怖い。業者での検査をよりお願いしたいです。

・野菜を作っています。有機肥料や病害虫に気を遣っています。虫食いや見た目が悪くなりますが、安心して子供や孫達に食べさせられます。

店頭に並んでいる野菜類があまりにもキレイなので残留農薬の心配があります。

・生産者が添加物等を適正に使用、表示しているかをもっとわかりやすくしてほしいと思っています。どのような管理・ルートで我が家の食卓に来たのか知りたいです。

・地産地消の推進。地場商品をもっと広くスーパーなど身近な販売店で多く扱っていただきたい。

・値段の安い海外からの輸入品よりも少し高くても安全な国産品を購入したいと考えているが、アサリの産地偽装などのこともあり、どこまで信頼してよいかわからない。食品は、体に直接入るものであり、安全性について信頼できるものかどうかを知る手段をわかりやすく情報提供してほしい。

・目に見えないところで生産され、きれいにパッケージされて、店頭に並んでいるものを買入ることが多いので、生産者の方を信じることが出来ないのが、現状。当たり前のことですが、食に携わる仕事をしている人は、安心安全なものを提供してほしいと思っています。

・食事については、自分で作った物が、一番安心であり安全だと思っています。ただ、元になる野菜やお米に使われている農薬は適正か？魚や肉の飼育肥料は大丈夫か？と思うことはあります。食品の基準があるので大丈夫だと思っていますが、しっかりした検査であってほしいと思います。

・鮮魚でサバなどのアニサキス中毒のニュースが時々話題にされるが、生で食べるときの注意事項やその他すべてにわたり食べ物への注意点など、特に中毒を起こしやすい時期などで県民への分かりやすい情報の提供が必要である。

・食品の安全性は安心しています。検査結果の情報を身近に目に触れると、より信頼出来ると思います。

・優良生産者生鮮食品への補助金を充実させる。

・生産者、加工業者、卸業者、流通保管業者と性善説に乗っ取って国民は信頼しているのが現状です。但し良からぬ考えの業者がそれを覆す行為を行うために国民は迷惑をします。前提は日本人としては性善説を尊びますが、現状の環境公的機関が常に監視することが大事で、信頼性、安全性を保つためにも行政側の監視作業は強化していただきたいと思っています。性善説を信じるためにも！

・どうして安全な食品が購入出来ないのか、それは利権や癒着など色々あると思いますが、その仕組みを根こそぎ変える必要があると思う。

農薬を使わずに安価に栽培出来る方法があるのに、なぜ取り組まないのか。県はその指導にあたってほしい。国が動かないなら、県で添加物を使用しないで食品が作れるように動いていくべきだと思う。そして、県民一人ひとりがもっと食について考えるように、講演会やシンポジウムなど町単位で開催して、身近なものになれば参加しやすいと思う。

・食の安全については、国内で自給自足する農政を確立すべきで、安全保障に通じることになる。